

(様式9)

活動プログラム

団体名（瀬戸町大内FOS少年団）

1. 事業内容

- | |
|--|
| <input type="checkbox"/> 子どもたちの生活習慣や学習習慣の確立に関する活動 |
| <input type="checkbox"/> 不登校（傾向）児童生徒対象の体験活動 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 自然体験、生活体験、社会体験に関する活動 |
| <input type="checkbox"/> 家庭教育支援に関する活動 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題の解決に関する活動 |
| <input type="checkbox"/> 地域人材の育成に関する活動 |

※複数選択可

2. 活動プログラム名

「 FOS少年団防災キャンプ 子どもたちで防災！」

3. 目標（ねらい）

※プログラムを通して、参加者に身に付けさせたい力、はぐくみたい姿等
防災学習を通じて、災害に直面した場合の適切な行動や日ごろからの災害に対する意識を育むとともに、地域とつながる大切さに気づく契機とする。

4. 活動計画 ※対象者の活動及び活動実施に向けた研修会等を記載してください。

回	★目標 ・活動内容・対象・参加者人数・スタッフ人数・会場等	◆目指す参加者の姿 (評価方法)
第1回	★防災学習を通して、災害に直面した場合の適切な行動や日頃からの防災に対する意識を育むとともに、地域とつながる大切さに気づく契機とする。 ・活動内容：炊き出し実習、段ボールベッドの製作、段ボールパーテーションを使用した疑似避難体験、水難時の安全確保(ライフジャケット装着体験) ・対象：小学生、中学生 ・参加人数：定員40名 ・会場：大内公民館（岡山市東区瀬戸町大内）	◆災害に直面した場合の適切な行動について理解している。 (参加時アンケート) ◆防災に対する意識が高まっている。 (参加時アンケート)
第2回	★炊き出し実習など防災知識・技術を取得する体験学習の機会を再度設けることで、学習の反復復習を通じて、防災意識の高揚と相互扶助の精神の必要性を認識させる。	同上 ※同じアンケートを行い学習成果の比較を実施。

5. 展開

回 時間	内 容	準備物	留意点	◆目指す参加者の姿 (評価方法)
【第1回】 <1日目> 10分	【導 入】 避難時の心がけ、地域で起こりえる災害についての説明	プロジェクター パソコン	動画を用いた災害の実例をわかりやすく紹介	災害が起きたときの心構えの必要性を再認識させる
20分	【活 動】 ○持ち出し袋チェック 「避難する際に必要な物」を3点持参させ、班単位で紹介や理由を発表するアイスブレイク		なぜその持ち物を用意したのかを意見交換する	お互いに必要な物を発表しあう
60分	○テント設営 キャンプテントを設営し就寝場所を確保	キャンプテント、ブルーシート、タープ	各班ごとに指導 熱中症予防のため水分補給 相互扶助の必要性を声掛け	年代を超えて協力し合う姿勢
120分	○炊き出し実習 冷凍食品や冷蔵庫の中の残り物を想定したカレー作り、アルファ化米実食体験	アルファ化米、保存用クラッカー、カレー用食材、食器、サンラップ	アレルギー有の児童の確認徹底 サランラップで洗い物の削減	年代を超えて協力し合う姿勢
60分	○消火実習 焚き火を実施した後、その火を消すための方法(消火器の取り扱い方法やバケツリレーなど)を実施	薪、防火バケツ、消火器等 水分補給用飲料	火気の取り扱いに十分留意 相互扶助の必要性を声掛け	火気取り扱いの重要性を理解する
60分	○防災動画鑑賞 防災庁製作動画を鑑賞	パソコン、プロジェクター	リアルさよりも理解を優先させる居住地域における災害を想定させる	起こりえる災害への理解度を深める
60分	○就寝準備・段ボールベッドづくり 段ボールを使ったベッドやパーティーションを作成し避難所での就寝体験	段ボール、養生テープ	実際に寝てみると体験させる	体験する姿、チャレンジしようとする姿を互いに評価しあう

<2日目> 60分	○起床・活動準備 ○朝食	朝食、水分補給用飲料		
180分	○カヌー体験及びライフジャケット体験 水難事故から身を守るための行動、ライフジャケット着用の方法、ペットボトルの簡易浮き輪使用方法を学ぶ あわせて河川敷の清掃活動を実施	カヌー、ライフジャケット、火ばさみ、ポリ袋、ペットボトル（2リットル）、ロープ	アレルギー有の児童の確認徹底 熱中症予防のため 水分補給 河川の水量等安全確認の徹底	体験する姿、チャレンジしようとする姿を互いに評価しあう
60分	○更衣・昼食			
90分	○テント撤去・周辺清掃	清掃用具、ポリ袋	熱中症予防のため 水分補給	年代を超えて協力し合う姿勢
30分	【振り返り】 ○アンケート記入 ○個人（あるいは班ごと）に防災への備えや気づきを発表	アンケート用紙	ひとりひとりの思いをアンケートに込めてもらう	自分の意見を持ちお互いを認め合う姿勢
【第2回】 10分	【導入】 オリエンテーション 活動の趣旨、前回の活動での経験の振り返り	パソコン、プロジェクター	前回活動時の写真を明示する	過去の経験を活用することの気づきを促す
90分	【活動】 ○火おこし体験 焚き火のコツ、マッチの使い方などを自分一人の力で実施する ○湯を沸かしてうどんをゆで、豚汁うどんとして食する	マッチ、固形燃料、薪、かまど	火の取り扱いに対するリスクを明示する 日常生活で用いる道具を活用して防災時の食事作りを理解する	火の取り扱いに対するリスクを理解する 自分の力で食事を確保する必要性を理解する
60分	○炊きだし実習 米を炊き、炊き出し用のおにぎりを自分たちで作る	米、サランラップ、おにぎりの具	アレルギー有の児童の確認徹底 サランラップで洗い物の削減	年代を超えて協力し合う姿勢 炊き出し時の苦労を実体験する

120分	<ul style="list-style-type: none"> ○災害体験 岡山市消防局による起震車実演（地震体験） ○防災クイズ 災害が来たときに起こり得る危険性を想像させる 	プレゼン資料 (災害前後の変化を明示する写真など)	<p>参加者の想像力を駆り立てる声掛け 実体験を踏まえた想像力の喚起</p>	年代を超えて協力し合う姿勢 プロフェッショナルな大人との出会いによる学びの充実
14:30-60分	<p>【振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○非常用持ち出し袋の説明をベースとした振り返り ○個人（あるいは班ごと）に防災への備えや気づきを発表 	アンケート用紙	<p>ひとりひとりの思いをアンケートに込めてもらう</p>	自分の意見を持ちお互いを認め合う姿勢